

目次

1. 本作品ガイドの位置づけ
2. 池大雅について
3. 《蘭亭曲水・龍山勝会図屏風》について
4. 屏風について

1. 本作品ガイドの位置づけ

本プログラムは、ゲーム的な要素を取り入れた作品鑑賞体験を通じて、児童・生徒の言語能力を涵養することを目的としています。そのため、参加に際して専門的な知識が必要とされるわけではありません。

しかしながら、プログラムを実施する教員の皆様には、児童からの質問への対応や、より広範囲に興味を促す場面も想定されます。そこで、そのようなシーンにおいてサポートできるよう、本プログラムに関連する作者や作家について基礎的な情報をまとめました。

2. 作者について

池大雅（いけのたいが） 享保8年-安永5年（1723-1776）

江戸時代中期、京都で活躍した画家で、京都の銀座（銀貨の鑄造を担っていた場所）役人・池野嘉左衛門の子として生まれました。幼い頃から書画の才能を発揮し、神童と称されます。元文2（1737）年、15歳で扇屋を開いたと伝えられます。中国から渡来した『八種画譜』や『芥子園画伝（かいしえんがでん）』といった画譜（様々な画法を解説した書物）を通じて南画（中国の在野の文人たちの画法（南宗画）を範とする。文人画ともいう。）を学びました。さらに萬福寺（まんぷくじ、現在の京都府宇治市にある、禅宗のひとつである黄檗宗の寺。明からの渡来僧である隠元隆琦（いんげんりゅうき、1592-1673）によって開かれた。）の僧侶や、日本で最初期に南画に取り組んだ柳沢洪園（やなぎさわきえん、1704-58）、祇園南海（ぎおんなんかい、1676-1751）との交流により、南画への理解を深めます。日本の伝統的な諸派の作品や、西洋画の表現をも取り入れ、伸びやかな筆線と明快な彩色、奥深い空間表現を特徴とする画風を確立し、南画の大成者となりました。

代表作に、杭州周辺の名勝を描いた《西湖春景・銭塘観潮図屏風》（せいこしゅんけい・せんとうかんちょうず、重要文化財、東京国立博物館蔵）、杜甫の詩にも詠まれた岳陽楼などを描いた《樓閣山水図》（ろうかくさんすいず、国宝、東京国立博物館蔵）などが知られています。また、与謝蕪村との合作《十便十宜図》（じゅうべんじゅうぎず、国宝、川端康成記念会蔵）は、ノーベル文学賞を受賞した文豪のコレクションとしても有名です。

大雅は旅や登山を好み、親しくしていた書家の韓天寿（かんでんじゅ、1727-1795）や篆刻家・画家の高芙蓉（こうふよう、1722-1784）と共に、富士山・立山・白山の登頂を果たしています。3つの霊山に登頂したことから、自ら「三岳道者」とも称しました。特に富士山については生涯で三度登ったと伝えられ、富士山を題材とした作品も多く残り、春夏秋冬の富士山の姿を描き分けた《富士十二景図》（たみず美術館、東京藝術大学大学美術館蔵）などが知られています。他に日本の風景を題材とした代表的な作品として、松島に旅した際に見た光景を思い出しながら描いた《陸奥奇勝図》（むつきしょうず、重要文化財、九州国立博物館蔵）や、信州の浅間山からの眺望を元に描いた《浅間山真景図》（あさまやましんけいず、個人蔵）などがあげられます。

3. 作品について

蘭亭曲水・龍山勝会図屏風（らんていきょくすい・りょうざんしょうかいずびょうぶ）



左隻

第六扇	第五扇	第四扇	第三扇	第二扇	第一扇

右隻

第六扇	第五扇	第四扇	第三扇	第二扇	第一扇

形 式：六曲一双（ろっきょくいつそう）

制作年：宝暦 13（1763）年

寸 法：各 158.0×358.0（cm）

材 質：紙本着色

所 蔵：静岡県立美術館蔵

指 定：国指定重要文化財

右隻には「蘭亭曲水」、左隻には「龍山勝会」という二つのだいが描かれています。いずれも中国・晋代の雅集（庭園や景勝地などで行われた文人たちの集い）の故事に題材をとっています。「蘭亭曲水」は3月3日の上巳（じょうし）の節供に、「龍山勝会」は9月9日の重陽（ちょうよう）の節供に行われており、春と秋という季節が対照されています。このような中国の文人たちの風雅な世界は、江戸時代の知識人たちにとって憧れの的でもありました。

本作は、大雅が41歳の時に手掛けた作品です。巨岩の合間をめぐる水流を中心とした右隻、遠近を極端に対比させた左隻と、両隻とも壮大な空間構成を見せている点に加え、樹木や岩に見られる柔軟で伸びやかな筆づかい、植物や人物の衣服を中心に施されたみずみずしい彩色は、数々の名作を残した大雅の円熟期の画風を示していると評されています。岩や樹木の一部、人物像の衣文には、金泥（金粉を膠の液に溶かした顔料）による線が施されており、装飾的な効果を高めています。

・蘭亭曲水（右隻）



中国・東晋の永和9年（353）3月3日、書聖と知られる王羲之（おうぎし、303?～361?）が文士41名を、浙江省・揚州郊外にあった別荘・蘭亭に集め、禊を行ったという故事が描かれます。流水に酒を注いだ杯を流し、自分の前を過ぎる前に作詩を行い、詩ができなければ、罰として杯を空けるという催しでした。王羲之の書跡として歴史に名高い「蘭亭序」（らんていじょ。唐の太宗が手に入れた後、自身の陵墓に副葬させたため、原本は伝わらないが、様々な写しが知られている。）は、この時に詠まれた詩を収録した詩集の序文であり、本図左上にも大雅自らが揮毫しています。

この「蘭亭曲水」は桃山時代以降、日本で非常に好まれた画題であり、江戸時代には、南画家のみならず、狩野派を始め、数多くの画家が手掛けています。

本作の曲水は、庭園に造られた水流ではなく、ごつごつとした巨岩の間を曲がりくねって進む、自然の溪流のような描写です。曲水に沿った各所には、ほんのりと色づいた桃の花が咲き誇り、透き通るような水の色と調和を見せています。

第二扇の上方に配された亭の内部には、王羲之たちの姿（①）が描かれます。曲水に集う文士たちは、互いに語らい、詩を詠み、また楽器を奏でています（②）。更に、寝そべてまどろむ者、すっかり泥酔した様子で童子たちに支えられる者（③）など、ユーモアに富んだ表現も見られます。このように、生き生きとした表情やリラックスしたしぐさなど、親しみやすい人物表現が、本作の魅力のひとつとなっています。



①



②



③



画題は東晋の孟嘉（もうか）という人物に関する故事です。ある年の9月9日、孟嘉は龍山で開かれた重陽の酒宴に招かれました。その折、風が吹いて孟嘉の頭巾が吹き飛ばされたものの、孟嘉は気がつきませんでした。他の参加者は、このことを嘲笑する詩を作りますが、孟嘉は平然として、見事な詩によって返答し、人々を感嘆させました。この「龍山勝会」は、右隻の「蘭亭曲水」とは異なり、大雅以前にはあまり絵画化されていない、珍しい画題です。

本作の「龍山勝会図」は、舞台となった山を画面左手前に、水景を隔てた市街を右奥に配すという、遠近を大胆に対比させた構図により、奥行きのある空間を作り出しています。

前景の天を突くような岩々にみられる、軽やかでスピード感のある線描や、濃淡やタッチを細やかに変化させることで様々な種類の木々の葉を描き分ける点など、自在で闊達な筆づかいが本作の見どころのひとつです。

この岩や木々の合間、第五扇の中ほどに高士たちが宴に集っている様子が描かれています。その中の手前に座る後ろ向きの人物が孟嘉です（①）。その下方には、風に飛ばされた孟嘉の頭巾を追う童子の姿が見えます（②）。また宴の行われている場所から左に目を移すと、童子が涼炉と急須で茶を淹れています。

さらに第一扇から第二扇にかけては、遠景に市街が描かれています。商店らしき建物が軒を連ね、道に人馬が行き交い、街頭では何か芸を披露していると思しき旗を持った人物が、多くの見物客を集め、賑やかな様子をうかがうことができます（③）。



①



②



③

4 屏風について

《蘭亭曲水・龍山勝会図屏風》はその名の通り、屏風形式の絵画作品です。デジタルアーカイブの高精細画像では、各隻とも一枚の平面として表示されますが、美術館の展示室では、他の屏風作品と同様に、ジグザグに折られ、自立した状態で展示されています。現在、日常生活において屏風はほとんど用いられず、美術館や博物館での展示のほか、寺や古民家などで飾られている以外にはあまり見かけませんが、非常に長い歴史を有しています。

屏風の源流は古代中国に求められます。漢代には、「風を屏（ふせ）ぐ」という字が示す通り、風よけの道具として用いられていたようですが、やがて室内を飾る調度品となります。

日本には飛鳥時代の頃に屏風が伝わったとされます。正倉院に残る、教科書でもおなじみの《鳥毛立女屏風》（奈良時代）は現存最古の屏風のひとつです。古代の屏風は、一扇ごとに縁取り（画面の四周を囲う裂）が施され、画面が独立していましたが、鎌倉時代には二扇で一つの画面を構成する形式が登場します。そして室町時代には六扇連続で一つの画面を構成する形式が成立します。更に左右二つの六扇分の画面から構成される六曲一双の屏風が誕生しました。この六曲一双は、屏風の最も基本的な形式となりました。

伝統的な屏風は、木枠に紙等を重ねて貼ることによって作られています。各扇は紙の蝶番によって繋がられているため、ジグザグに折ることができ、室内の任意の場所に自立させることができます。また、折り畳むことで、持ち運びも容易となり、催しに合わせて出し入れすることができます。

調度品としての役割を持つ屏風には、絵が描かれている画面以外の表具にも様々な意匠をみることができます。画面の周りに回されている裂や、縁を飾る金具、背面に貼られる唐紙などに、所有者の趣味が反映されている場合もあります。